

身体知領域「身体のリベラルアーツ」共通シラバス

1. 授業の概要：

身体知領域では、身体性が問われる現代社会の中で、身体の側面からの人間理解を試みる。この授業では「他者のために、他者とともに生きる人間」を目指す上で基盤となる、自分自身の「身体=存在」への気づきを基礎として、身体を通じた自己・他者・外界とのコミュニケーションを体感するアクティブラーニング（実践と体験学習）に重きを置きながら、ウェルネス、スポーツ、身体、文化など様々な題材から、一人ひとりの身体の知を涵養する機会を提供していく。

2. 到達目標(授業の目標)：

- ・身体、こころ、スピリチュアリティの総体としての「からだ (soma)」に気づき、考え、表現し、行動する力を育てる。
- ・身体の視点/地平から健康・文化・社会に関わる課題に気づき、批判的に考え行動する力を育てる。
- ・メディアとしての身体に気づき、考え、表現し、知を共有する力を育てる。
- ・身体の気づきを個から他者、環境との関わりへと広げ、多様な現代社会の課題を創造的に考え行動する力を育てる。

3. 授業時間外(予習・復習等)の学習内容と時間の目安(あるいは分量)

毎回の授業後は以下の学習（合計 200 分）を行うことが求められる。

本講義では、事前資料による予習の他に、学んだ内容の復習（実生活での実践）と継続課題作成（生活習慣の記録）を授業時間外に行う。

- ・ノート・メモ等と授業資料を利用して内容を復習する（20分）
- ・継続課題として生活習慣を記録する（20分）
- ・授業内で学んだ身体活動を生活に取り入れて実践する（140分：20分/日）
- ・講義や実習に関わる事前資料を読み、関連する情報について調べ理解しておく（20分）

4. 評価基準・割合：

授業参画 50% + 課題提出 50%

授業内で出される課題の提出物で評価。欠席を3回以上した場合不合格とする。

5. テキスト(教科書)

授業時に適宜資料を配布する。

6. 参考書

書名：身体のリベラルアーツ

著者名：上智大学基盤教育センター身体知領域編

7. 講義スケジュール

1	はじめに：出会いのセッション 知としての身体を考える (内容) 履修方法・授業内容説明・授業コンセプトの共有 ※2～6回の実施内容や順序はクラスによって異なる。詳細は授業時に説明する。
2	身体のアソロジー 自分を取り巻く身体と社会について考える
3	メディアとしての身体 (内から捉える身体1)
4	メディアとしての身体 (内から捉える身体2)
5	メディアとしての身体 (交流する身体1)
6	メディアとしての身体 (交流する身体2)
7	まとめ：“わたしの身体“から社会へ 学びの Embodiment(身体化)

内容補足

1. はじめに

- ・履修方法・授業内容説明、授業コンセプトの共有

2. 身体のアソロジー

- ・ウェルネスや健康、スポーツや身体の文化についてトピックを取り上げディスカッションする

3. メディアとしての身体(内から捉える身体)

- ・さまざまなワークやレッスンを通して、自身で感じる体験から起きる変化や他者との違いを知る

4. メディアとしての身体(交流する身体)

- ・チームで行うワークやレッスンを通して集団や他者との関わりを考える

5. まとめ

- ・体験からの学びについてのふりかえりや、卒業後も継続する学びの身体化について
- ・200番台科目や高学年向け科目への連携について